

# 協同的ノートテイキング

## ——中上級日本語学習者のための講義を聞く練習の一提案——

土居美有紀・井手友里子

### 要 旨

講義理解は、学部や大学院に進学した留学生が苦勞するものの一つである。しかし、日本語授業での一般的な聴解タスクはポイントを聞き取るものが多く、講義理解能力の育成につながる活動はあまり行われていない。そこで、筆者らは、中級レベルでも対応できる講義理解活動を目指し、講義後の復習と情報整理を促すコーネル式ノート術に協同学習を取り入れた「協同的ノートテイキング活動」を考案した。この活動を通して、講義中のノートの取り方、講義後の情報整理、概要把握のための要約、クラスメートとの協同といった講義理解に有効なストラテジーを学ぶことができる。

本稿では、2021年の秋学期と2022年春学期2学期間の実践とアンケート調査の結果を報告する。アンケート調査で学習者からはおおむね肯定的な意見が得られ、学習者自身も講義後に情報を整理することやクラスメートと協力することの有用性を認識したようだった。

キーワード：中上級日本語、講義、ノートテイキング、聴解、協同学習

## 1. はじめに

南山大学外国人留学生別科の日本語Ⅳは中級後半のクラスで、週8コマ（1コマ100分）を14週間かけて学ぶ日本語の集中コースである。学習者の中には別科推薦を受け学部に進学する者や、将来日本の大学院に進学を希望している者も毎学期数名いる。一方で、執筆者（土居）が他大学で日本語学習のアドバイジング業務に携わっていた時には、日本語の講義についていけないという学部留学生の相談が多々あり、学部や大学院に進学する前に中級後半の日本語クラスから何か準備はできないかと模索していた。一般的な聴解タスクはポイントを聞き取るものが多いが、実際の講義では、自分でポイントを聞き取る能力、情報を整理する能力が必要になる。そしてその講義ノートを使って定期試験まで講義の内容を振り返り復習することになる。母国でもノートを取る習慣がない学習者やどうやって講義ノートを取ればよいかわからない学習者が学部や大学院に進学しても困らないように、中級レベルでできる訓練を考えてみることにした。

## 2. 先行研究

### 2.1. コーネル式ノート術

コーネル式ノート術は、米国のコーネル大学のPaukによって開発されたノートテイキングの手法で、ノートを図1のように3つの領域に分けるのが特徴である (Pauk & Owen 2013)。まず、最も大きな領域は講義で得た情報を書き込むためのノートとして授業中に使用するスペースである。左側のキューコラムと下のサマリーエリアは授業後、できるだけ記憶が新しいうちに書き込む領域である。キューコラムには、ノートで書いた情報を思い出す手がかりとなるような質問を書く。十分なスペースがない場合は、文ではなく「コーネル式ノート術?」「キュー

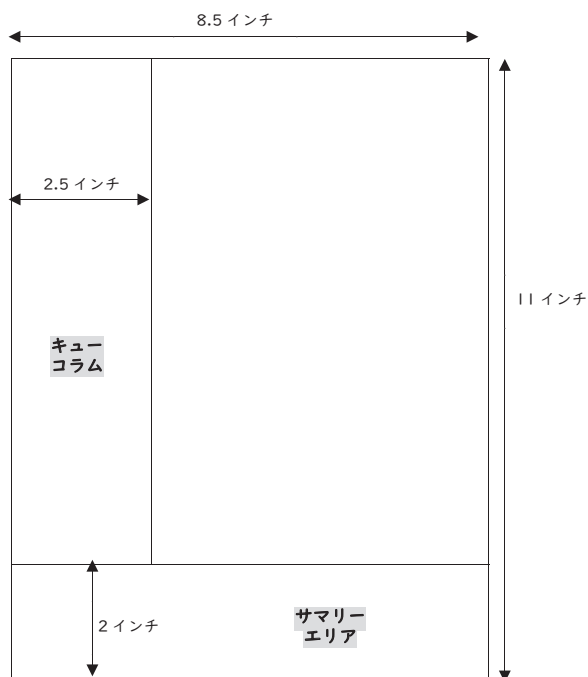


図1 コーネル式ノート

コラム?」のように情報を整理するためのキーワードを書いてもよい。質問やキーワードを書く過程で、ノートから重要な情報を抽出し、整理することができる。サマリーエリアには、上のノートに書いた内容を1~2文にまとめた要約を書く。この要約があると、試験前に復習をする際に情報を探しやすくなる。また、全体が理解できているか確認する機会にもなる。

完成したノートは反復学習に活用する。試験前など復習の際に、キューコラムに書いた質問に対する答えを自分の言葉で言い換えて説明してみることで、ノートに書いた答えが自分の知識となり、記憶の強化が期待できる。

以上をまとめると、コーネル式ノート術は講義後の復習と反復学習によって聴解という受動的な学習を情報整理という主体的な学習に変える手法だと言える。中級学習者にとって、聴解と同時に情報を整理してノートを取ることは難しい。コーネル式ノート術では情報整理は講義後に行うことになっており、講義中は聞き取った情報をノートに取ることに集中できるため、中級学習者にとっても活用しやすいものであると思われる。

## 2.2. 講義理解における協同活動

学生間の協同が講義理解のストラテジーの一つとして重要な役割を果たすことはこれまでも指摘されている。毛利（2014）は、講義理解に求められる「社会文化行動に関わるスキーマ」の一つに「学習に対する共同的、協動的、支援的な意識に関する知識」を挙げている。

実際にグループ学習がノートの改善に貢献する可能性があるという指摘する報告もある。上野ら（2009）は、日本国内の大学生を対象に作問を利用したグループ学習の実験を行った。講義後にその内容に基づいて質問を作り、解答の確認をグループ学習で行ったところ、作問を利用したグループ学習では誤情報を発見することができる可能性が示唆された。また、実験参加者が「他の参加者の作成した問題を見ることで、自分の作成したノート中の講義情報の抜けに気づくことができた」というコメントをしたことも報告されている。これは、母語話者を対象にした実験だが、非母語話者、特に日本語能力が中級程度の場合、誤情報や情報の抜けの割合が多くなると予想され、グループ学習による情報訂正や情報補完の効果がさらに期待できる。

そこで、執筆者らはコーネル式ノート術に協同学習を取り入れた「協同的ノートテイキング活動<sup>1)</sup>」を考案し、実践を行った。この活動のねらいは主に二つある。一つは、コーネル式ノート術で講義後の情報整理スキルを学ぶことである。もう一つは、本来、自問自答用を使用するコーネル式ノート術のキューコラムの質問をペア、またはグループでの内容確認に活用し、一人では心もとない情報整理を学習者同士で協力して行い、さらにノートの部分に書かれた情報の補完や訂正をする機会を与えることである。

## 3. 日本語Ⅳでの協同的ノートテイキングの実践

本章は日本語Ⅳにおける2021年秋学期と2022年春学期の実践について述べる。中級レベルの学習者が予備的な訓練なしに長い講義を聞く練習を行うことは負担が大きいと考えたので、本クラスで使用している主教材『4技能でひろがる中級日本語カルテットⅡ』の聴解1を使って行うことにした。この聴解は2～3分程度の講義形式の聴解になっており、日本語の講義が聞けるようになることを目指して作られたものである。7～12課のうち5課分の聴解1を使って行った。

### 3.1. 2021年秋学期の実施

履修者は、アメリカ、中国、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ハンガリーからの留学生7名であった<sup>2)</sup>。

2021年秋学期はオンライン授業であったため、特に手順を口頭で説明するのは難しい

と思われたので、活動手順を視覚的に示すためにデモンストレーションビデオ（以下、説明ビデオ）を作成した。この説明ビデオはコーネル式ノートの概要を説明した後、7課の聴解1で実際にノートテイキングを行う様子を見せながら手順を説明したものである。以下の①～⑤に分けて作成した。

表1 説明ビデオ パート1

①コーネル式ノートのフォーマットの説明	3つに分けられたスペースをそれぞれどのように使うかの説明。(右側にある最も広いスペース=講義を聞いて講義ノートを書くスペース、左側=キーワードを書くスペース、下=サマリーを書くスペース)。また、コーネル式ノートを参考にノートテイキング用の用紙を日本語IV用に作成し学習者に配布した。
②早く書くための記号の例の紹介	低くなる「\」、同じ「=」など、記号などを使って短い言葉で書くことを説明。
③「ノート」のスペースの実演	講義内容を書く「ノート」のスペースを使って、実際に講義を聞きながらメモを取っている様子(どのような言葉を拾ってどのような記号を使ってメモしているか)の実演を、パソコンのモニター画面を録画して作成したもの。
④「キーワード」のスペースの使い方	講義ノートを復習するためのキーワードや質問を書くことを説明。
⑤「サマリー」のスペースの使い方	短くまとめることを説明

説明ビデオ「パート2」は、ペアで行う「ディスカッションのやり方」について以下のパートに分けて作成した。

表2 説明ビデオ パート2

①ディスカッションのやり方	「キーワード」のスペースにどんなキーワードを書いたか、その答えは何かについて話し合うことを説明。
②ディスカッションの実演	パソコンのモニター画面を録画して、ディスカッションの参加者がノートのどの部分を見ながら話し合っているかの様子をデモンストレーションしたもの。キーワードとサマリーの話し合いに分けて作成した。

オンラインのコースであったため、授業ではZOOM（ウェブ会議サービス）を使って以下の手順で行った。まず、このノートテイキングを行う目的について、a. 主教材『カルテットⅡ』の聴解1は「講義形式」の聞く練習で、日本の大学で受ける講義を想定して作成されており、それを使った発展練習として行うこと、b. このクラスを含め、中上級クラスには、将来、日本の大学や大学院への進学を目指す学生が少なくないので、講義を聞いてノートを取る練習は有益であること、c. ノートテイキングは、他の日本語のセミナーコースでノートを取る時や、母語で講義を聞く時、大学や大学以外の場所でスピーチを聞く時など、いろいろな場面で役に立つスキルであることを学習者に説明した。その後、説明ビ

デオを使って手順を説明しながら練習を行った。

まず、説明ビデオ「パート1」の①～③を見せ、練習として7課の聴解1を聞きながら実際にノートを取らせた。7課の聴解は、この時点で既に宿題で扱っており、学習者には既習の内容であったが、このノートテイキングの活動の導入は聞いたことがある素材で行った方が学習者の負担が少なく概念が理解しやすいと思われたので、これを使用した。実際、この練習の活動の後何人かに感想を聞いてみたところ、普段の教室活動の様子から聞くことが苦手だと思われる学習者も、一度聞いたことがある内容だったので難しくなかったと言っていた。講義形式の聴解は長く、内容も難しいので、音声は3回流し、講義ノートを取らせた。この際、自分が必要だと思った情報が書ければよいので、ただたくさん書けばよいというわけではないことも伝えた。次に、説明ビデオ「パート1」の④（キーワード）を見せた後数分時間を取り、実際にノートの「キーワード」の部分を書かせ、その後、ビデオの⑤（サマリー）を見せた後、実際にサマリーを書かせた。

続いて、説明ビデオ「パート2」の①（ディスカッションのやり方）と、②（ディスカッション実演）をディスカッションのやり方がわかる程度の長さまで見せ<sup>3)</sup>、その後、実際にペアで話し合いをさせた。キーワードを使った講義内容の確認と、サマリーの共有と改善の話し合いを続けて行った。この際、ディスカッションの目的と有用性について、a. 正しくノートが取れたかクラスメートと情報を確認すること、b. 自分がわかったことを人に話すことで自分の頭の中で情報が整理でき、理解が深まること、c. 講義があまり聞き取れなかった場合に、クラスメートと情報を補い合って理解を深めるといった社会的な講義ストラテジーを身に付けられることを伝えた。また、ディスカッション中は、講義を理解するのに十分なキーワードが書けているか、キーワードについて、「ノート」欄のメモを見ながら説明できるか確認するとともに、自分が書いた情報が足りないと思えば、「ノート」の欄に情報を追加するように伝えた。

7課を用いて導入した後、後日、9課でもノートテイキング活動を行った<sup>4)</sup>。9課も宿題として教科書の聴解問題（図を選ぶ）をやってきた後、クラスでノートテイキングの活動を行った。活動の流れについてまだ模索中であったため、活動の導入として行った7課と、9課の2回の実施後、学習者に感想を聞いてみた。Google formsを使い無記名で意見を求め、7名中5名から回答が得られた。以下に学習者の意見を紹介する。

表3 2021年秋学期の学習者の感想

<p>協同的ノートテイキングのよい点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手で書くことの練習ができます。クラスメートと話し合っ確認する機会もあります。</li> <li>・聴解は難しいのでこの活動は役に立ちます。詳しく聞く練習です。</li> <li>・練習だけですから、ストレスになりませんが、書くスピードが早くするに役立ちます。ノートテイキング活動が、授業中のメモをするのに役に立ちます。</li> <li>・大切なこととポイントを簡単に書くことができます。大切なキーワードも探すストラテジーを学ぶことができます。アイデアとメインポイントをノートで整理することができます。</li> <li>・新しい言葉も勉強できるし、書くのも練習できます。それにその文章を自分意見でまとめるできるのはいいと思います。もう一つは聞き練習することです。自分がその文章の内容はどのくらいわかるか自分の能力がわかります。</li> </ul>
<p>この活動をよくするために(難しい点、アドバイスなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時々講義の言葉がわかりません。宿題をする時にもわかりません。ですから、写しなど(スクリプト?)があればいいと思います。</li> <li>・ノートを作るとき、書きながら、聴解がまだ続くことは多いです。表現を書き始めたからもう一回聴解を聞く間に、少し聞きにくくなって、あまり分からなかったことがあります。その時、どうすればいいですか。</li> <li>・活動の前に聞かなかった音声に聞いて、ノートを取る活動もすればいいと思います。</li> <li>・講義やレッスンによく集中して、できるだけ気をちらさないでだと思えます。日本語でノートテイキングの難しいところは漢字とカタカナを書くと思えます。</li> <li>・その文章は絵や新しい言葉、難しい言葉があれば、聴いている間にスクリーンに共有したほうがいいと思います。そうしたら、内容がわかりやすい</li> </ul>

教師がこの活動の意義として考えていることと概ね同じ意見が学習者の感想からも得られた。また、実際の講義では稀であるが、新しい単語をパワーポイントなどで提示しておくということは、このノートテイキングの「練習の段階」では役に立つという示唆も得られた。

今回学習者から得られた意見をもとに、10課以降の実践では教科書の新出単語リストにある単語と教科書の図表をパワーポイントで提示しながら実施した。また、「サマリー」を書く活動については、個人で十分なノートテイキングができていたペアの話し合いからは、お互いの要約を聞いて不足している情報を補完し合っている様子が見ええた。しかし、ほとんどのペアは、講義の内容を十分に理解していない状態で準備したサマリーに、ペアで話し合っ深めた内容を反映させ、お互いのサマリーを改善し合うところまでには至っていなかった。よって、サマリーを書いてからペア活動をするのではなく、キーワードを用いてペアで講義内容を確認し、十分に理解を深めてからサマリーを書くほうが効果的であると思われた。また、そうすることは、特に聴解の弱い学習者の負担の軽減にもつながると考えられた。これらのことから、サマリーは話し合いの後各自で書くことにし、説明ビデオをもその流れに沿うように編集した。

### 3.2. 2022年春学期の実施

履修者は、アメリカ、フランス、シンガポール、台湾、ベルギー、イタリア、ハンガリー、インドネシアからの留学生10名であった<sup>5)</sup>。この学期も引き続きオンラインのコースであったため、ZOOMを使って行い、100分授業のうち、30～40分で行った。

前回の改善に加え、今学期は更に以下のような改善を加えた。

表4 2022年春学期の改善点

ノートテイキングの進行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7課～12課のうち、内容が難しすぎないものは、初見で行う。</li> <li>・宿題で一度聞いた聴解の場合もあるが、新出単語はパワーポイントで提示するだけでなく意味の確認も活動の前に行っておく。</li> <li>・音声は2回流すだけにとどめる。十分にノートが取れるように前学期までは3回聞かせていたが、初めの段階で全部が理解できることを目指すよりも、理解できない部分があった方が後の話し合いが充実するからだ。また、現実社会では講義は一度しか聞けないので、学習者がほぼ聞き取れたという状況をあえて作らない環境で話し合わせることにした。</li> <li>・「キーワード」は単語だけ書く学習者が多かったので、自分が先生ならこの講義の理解を確かめるために、どんな質問を学生にするか（試験の時どんな質問をするか）を考えさせる。</li> </ul>
ディスカッションの質を高めるために	<p>〈問題点〉 前学期のディスカッションは、ペアの相手によって質にばらつきがあった。「～さんが書いた○○の部分がよかった。でも□□の情報を入れた方がもっとよくなる。私は△△を入れていなかったの、△△の情報をいれた方がいい」など、相手を書いたサマリーでよかったところをほめ、自分に足りない部分に気づき情報を補っていたペアもあった。一方で、ノートに書いた講義内容の確認はほとんど行わず、自分の意見を話しているペアがあり、話し合いの目的が変わってしまっていた。聞いたことについて自分の意見を話す活動も大切だが、講義内容で自分が拾えた部分だけで自由に話を広げてしまった場合、拾えた部分が講義のメインポイントでなければ、内容がずれた話し合いになってしまう。実際、そのペアに講義内容に関する質問をしてみると、理解できていない部分が多く講義内容に関する話し合いが不十分であったことが分かった。</p> <p>〈改善点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッションで一方ばかりが自分が分かったこと話すということを防ぐため、ディスカッションは相手に自分が作った質問をするという形で進めさせる。</li> <li>・ペアで十分講義内容が深められたかをチェックするため、ペアのディスカッション後、教師自身が参加者として「キーワード」にメモしたキーワードや質問を学習者に聞き、キーワードを学習者に説明させたり、質問に答えさせたりする。この活動により、ペアの話し合いがしっかりできているか確認できるとともに、どんなキーワードや質問を書けばよいのかのヒントを学習者に与えることができる。</li> </ul>
サマリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでのディスカッションで講義内容を確認した上で、サマリーを各自書かせる。作業時間に個人差があるので、時間がない場合は、宿題にする。</li> </ul>

7課～12課まで上の手順で実施した後、学期末に再び学習者に感想を聞いてみた。Google formsを使い無記名で意見を求め、10名中6名から回答が得られた。以下に学習者の意見を紹介する。

表5 2022年春学期の学習者の感想

<p>協同的ノートテイキングのよい点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く練習になる。そして、速く書かなければならないから書く練習にもなる。また、聞く後、クラスメートと話すのはいいスキルだと思います。</li> <li>・聴解の練習としてとてもいいと思います。ノートテイキング活動をしたら、簡単に全体から要点をわかることができます。</li> <li>・最初は確かにあまり日本語でやりとりをしないトピックを聞くのがすごく難しかったが、するほど集中できて、内容がわかるようになりました。</li> <li>・聞く能力が上達できます。(スクリプトがなくても、新しい単語の意味やグラフなど含めているからいいです。みんなが初めて難しいトピックをスクリプトを見ずに理解してみるからです。)</li> <li>・日常生活の単語だけでなく、社会問題の単語が習えます。</li> <li>・日本語の授業の内容をノートする練習がいいと思います。日本語のコースを取ったらいい練習になります。</li> <li>・聴解の練習として役に立つと思います。また、クラスメートと一緒にディスカッションのおかげで、聞き取れなかったことも、やっと理解できました。</li> <li>・聞くのスキルを上達されました。また、授業でたくさんことがある時のもっとフォローできるようになりました。</li> </ul>
<p>この活動をよくするために(難しい点、アドバイスなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す速さは早いです。もう遅いけど、まだ難しいと思います。3回聞くのは理解できると思います。</li> <li>・特に何もありません。聴解だけではなく、読解のノートテイキング活動もしたらいいと思います。例えば、記事を読みながら、ノートを取ります。</li> <li>・最初のトピックはみんなが知っているトピックから導入した方がいいです。教科書以外のトピックで、もっと短い会話から練習させた方がいいと思います。</li> <li>・本当の日本語のコースの内容で練習することがいいと思います。</li> <li>・難しいところは早くメモを書くことです。例えば、時々ディスカッションの時、クラスメートと私はメモをまだ書き終わらなかったため、メモを書きました。しかし、そのため、ディスカッションの時間が短くなりました。</li> <li>・多分教科書の他、有名なアニメや番組のものを使っている練習はいいかもしれません。</li> </ul>

前学期同様、この活動の意義が概ね学習者に伝わっていることが分かった。一方、メモが書き終わらなかったためディスカッションの時間が短くなってしまったという声があったが、今回もZOOMでの実施であったため、学習者の様子を見ながら進行できなかったことが原因であると考えられる。対面で実施できれば、学習者の様子を見ながら時間を調節できるのではないかと思う。さらにディスカッションの内容に関しても対面実施では個別の観察もしやすく新たな気づきや改善点が見つかるのではないかと考えられる。また、学習者の負担を考え教科書の短い講義を使用した方が、学習者は色々な素材で試したがっていることが分かった。慣れてきたら本物の生教材で行うのもいい練習になるだろう。

#### 4. まとめと今後の課題

本実践では、中級レベルでも対応できる講義理解活動を目指し、講義後の復習と情報整理を促すコーネル式ノート術に協同学習を取り入れた「協同的ノートテイキング活動」を行った。この活動により、講義中のノートの取り方、講義後の情報整理、概要把握のため



の要約など講義の復習の仕方を学ぶことができ、クラスメートとの協同による社会的講義理解ストラテジーの重要性も意識できるようになると期待した。

2学期の実践のいずれの場合も、アンケート調査で学習者からは概ね肯定的な意見が得られ、学習者自身も講義後に情報を整理することやクラスメートと協力することの有用性を認識したようであった。また、早く書く練習になる、単語の学習になるなど聴解以外の面について評価するコメントもあった。

一方、「早く書く」のが難しいというコメントもあった。内容を聞き取ると同時に漢字を書くのは認知負荷が高く、難しい作業である。書くのが難しいという学習者に対しては、ローマ字や母語でメモを取り、聴解の後に漢字を調べる、クラスメートに聞くなどして、講義後に修正していけばよいということを強調して伝えるのがいいだろう。

今回はオンライン授業ということもあり、実際の学習者のノートや講義後の協同作業の様子をうかがい知ることができなかった。学習者のノート、グループでの話し合いを分析し、協同によりどのようにノートが修正されていったのかを個別に観察すると、学習者にとって難しい点が明らかになり、どのような指導が必要かについてヒントが得られるかもしれない。また、講義中に書いたノートと、講義後、協同により修正したノートの両方を学期を通して記録することで、学習者個人の伸びを観察することもできるだろう。さらに、この「協同的ノートテイキング活動」は講義形式の聴解練習だけでなく、実際の講義やスピーチなどでも応用可能だと考えられる。講義となると言語面、内容面ともに難易度が高くなるが多いため、はじめは講義以外の聴解で始めるということも可能かもしれない。

今後は上記のような点を検討し、「協同的ノートテイキング活動」のさらなる改善を図りたい。

#### (注)

- 1) 「協同的ノートテイキング活動」は、2021年10月30日に行われた日本語ブックス主催のオンラインセミナー『『中級日本語カルテット』を使って～4技能統合型の聴解活動～』で紹介した活動である。現在、手法・教材が一般公開されている。
- 2) オンライン授業であったため、2つのタイムゾーン（午前のアメリカ・アジアは5名、夕方のヨーロッパ・東南アジアは2名）で行われた。
- 3) 実際のビデオでは、どんなキーワードや質問を書いたか最後まで話し合いをしている。
- 4) 8課の聴解1は講義形式ではないので行わなかった。
- 5) オンライン授業であったため、2つのタイムゾーン（午前のアメリカ・アジアは4名、夕方のヨーロッパ・東南アジアは6名）で行われた。

#### 参考文献

上野歩・三浦正輝・弥富健太・中村太戯留・田丸恵理子・上林憲行（2009）「ノートテイキング

における誤情報の発見と修正に関する研究：作問を利用したグループ学習による効果測定」

『全国大会講演論文集 第71回（コンピュータと人間社会）』 pp. 577-578

毛利貴美（2014）『講義理解におけるアカデミック・インターアクションに関する実証的研究』  
ココ出版

安井朱美・井手友里子・土居美有紀・浜田英紀（2020）『4技能でひろがる中級日本語カルテッ  
トⅡ』 The Japan Times

Pauk, W., & Owens, R. J. (2013). *How to study in college*. Cengage Learning.

# Cooperative Note-taking Activity — A Suggestion for Practice Listening to Lectures for Intermediate and Advanced Learners of Japanese —

Miyuki DOI, Yuriko IDE

## Abstract

Lecture comprehension is one of the things that international students struggle with. However, most common listening comprehension tasks in Japanese language classes involve listening for key points, and few activities are conducted to develop lecture comprehension skills. Therefore, the authors devised “Cooperative Note-taking Activity” for intermediate learners. This activity incorporates cooperative learning into the Cornell Notes; a note-taking system which help students organize information gained from lectures. This activity is expected to help students learn effective strategies for lecture comprehension, such as taking notes during the lecture, organizing information, summarizing to grasp the outline, and collaborating with classmates after the lecture.

This paper reports the practice of the activity and the results of a questionnaire survey from fall semester 2021 and spring semester 2022. According to the result of the questionnaire, students’ comments were generally positive, and they seemed to recognize the usefulness of organizing information and cooperating with classmates after the lecture.

**Keywords** : upper intermediate level, lecture, note-taking, listening comprehension, cooperative learning